近畿様式

有田市地域公共交通会議（ネットワーク全体の評価）

１．協議会が目指す地域公共交通の将来像

公共交通の将来像

■有田市の概要（令和４年 12 月末現在）

【人口】26,214 人　【面積】36.83k ㎡　【高齢化率】35.20％

【主産業】石油精製、ゴム製品等の製造業、果樹栽培、沿岸漁業

■公共交通の将来像（第５次有田市長期総合計画　前期基本計画より）

【公共交通機関の充実】

ＪＲやバス・タクシー事業者など、関係事業者との連携強化に努め、料金体系・運行ルート・停留所の配置等の見直しや環境改善に取り組みます。

【新しい交通システムの研究】

初めて利用する人でも安心して利用できるよう、広報など各種情報発信ツールを用いて、積極的に情報提供を行います。

【デマンドバス利用促進活動】

利用者の利便性向上及び利用促進に向け、分野横断的に関係機関と協働し、利用する市民が公共交通を支える持続可能な仕組みの構築に取り組みます。

公共交通ネットワークのイメージ図

※別添参照（別図）

２．目標設定及びその達成状況の評価に関する事項

交通空白地帯の解消を図りながら、安定してサービスを提供するという観点により、以下の目標・効果の達成状況に基づく評価をおこなう。

①公共交通空白地域を解消する。

②対象地区人口が減少傾向にある状況の中でも、年間輸送人員、運賃収入を前年度並み 100%に維持する。

〈参考〉

指標名	令和元年度末時点	令和６年度末
バス乗車人員	13,735 人/年	15,000 人/年
バス停留所協力事業者	－	20 か所
地域交通に対する市民満足度	14.0％	30.0％
鉄道乗車人員（市内３駅）	2,562 人/日	2,900 人/日

３．目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

（１） 取組経緯

本市では民間バス路線の撤退により、鉄道駅周辺以外の住民の公共交通手段が失われるおそれがあった。そのような中で、高齢者等の交通弱者の交通手段を確保するため、地域内フィーダー系統補助金を活用し、ＪＲ箕島駅と接続するデマンドバスを市内全域で運行させている。

また、人口減少が進む中で、今後も安定してサービスの提供を続けられるよう利用者数を確保することが必要であり、時刻表の配布や広報紙での呼びかけなど、利用促進に取り組んでいる。

■有田市地域公共交通会議の開催状況

R4.1.21　地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について（書面開催）

R4.6.28　生活交通確保維持改善計画について

（２） 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等

補助対象事業

地域公共交通確保維持改善事業				
事業	実施主体	着手・実施期間	種別	事業概要
有田市デマンドバス	中紀バス(株)	R3.10.1 ～ R4.9.30	フ	市内全域で路線バス（一部デマンド）を運行する。
有田市地域公共交通計画策定調査事業	有田市地域公共交通会議	R4.5.16 ～ R5.3.31	策	持続可能な公共交通ネットワークの構築のため、地域の関係者と広く協議を行い、令和４年度末までに有田市地域公共交通計画（案）をとりまとめる。

【種別】幹：地域間幹線系統、フ：地域内フィーダー系統、策：計画策定事業、推：計画推進事業
利策：利便増進計画策定事業、利推：利便増進計画推進事業

その他補助事業			
事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
世界遺産地域における外国人観光客の二次交通の利便性向上	紀伊半島外国人観光客交通対策推進協議会（国・県・バス事業者・市町等）	R4 年度～	事業者共通の路線図作成や停留所・交通拠点の整備、バス路線図や観光地の周遊ルート等を記載した多言語化ガイドマップの作成など二次交通の利便性向上を図る。

非補助事業

事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
時刻表の作成・配布	有田市	R2.10.1～R3.9.30	有田市デマンドバスの時刻表を作成し、市内各所で配布

（３） 生産性向上の視点から取り組んだ事業

※「（２）目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等」のうち、生産性向上を目指して取り組んだ事業について、その内容を記入して下さい。

※上記以外の事業においても、該当する事業・取組等があれば、その内容を記入して下さい。

事業	取組内容	効果目標
小学生向けバスの乗り方教室	市内の糸我小学校 1、2 年生を対象にバスの乗り方等を伝え、利用に繋がる機会を作った。	利用者・運賃収入の増加
広報ありだ 10 月号デマンドバス特集等	市内の箕島高校生徒が選んだ有田市デマンドバスで行くことができるおススメスポットを市の広報紙で紹介し、利用促進に繋がる機会を作った。また、市の公式 YouTube 等の SNS でも連動して情報発信を行った。	利用者・運賃収入の増加
その他の取組	・小学生、障がい者、高齢者運転免許証返納証明書保持者の運賃割引 ・乳幼児の運賃無料 ・市立病院における運転免許証返納証明書保持者への乗車券サービスの配布	利用者・運賃収入の増加

４．具体的取組に対する評価

公共交通空白地域の解消及び交通手段の確保については、有田市デマンドバスが市内のほぼ全域を運行することにより達成されている。

年間輸送人員及び運賃収入については、利用促進の観点から地元の高校生と協力し、広報紙で特集を組むなどを行ったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたこともあり、前年度の水準を下回る結果となった。

今後については、感染状況の推移を見極めながら感染症の収束後も見据え、事業者と協力し、取組を進めていく。

また、持続可能な公共交通ネットワークの構築のため、本市の公共交通の現状や課題を理解した上で、地域の関係者と協議を行い、有田市地域公共交通計画の策定を行う。

５．自己評価から得られた課題と対応方針

課　　題	課題への対応方針
全体として減少傾向が続いており、計画作成時の想定よりも利用者の減少が顕著となっている。	・近隣事業者と連携し、停留所の過ごし方に新たな観点で取り組む。また、高齢者に限らず幅広い世代が活用できるよう取り組む。 ・持続可能な公共交通ネットワークの構築のため、本市の公共交通の現状や課題を理解した上で、地域の関係者と協議を行い、有田市地域公共交通計画の策定を行う。

有田市地域公共交通会議（これまでの経緯）

１．昨年まで（直近）の二次評価の活用・対応状況

昨年まで（直近）の二次評価における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
新型コロナウイルス感染症の影響により、目標・効果について達成できなかったところはあるものの、事業実施の適切性については評価できる。 公共交通にとって安全・安心は重要であり、継続してバス停待合環境の整備、コロナ対策の周知などにより、利用促進に務められたい。	バス停付近の事業所と連携することで、安全面や待ち時間の改善へ取り組んでいく。 また、小学生に向けたバス教室や有田市の広報紙で特集を組むこと、ＳＮＳ等による情報発信を通じて、新たに公共交通を利用する人が増えるよう運行事業者とも協働しながら利用促進に務めた。	利用促進策を継続して実施しつつ、実施後の効果を評価・検証し、高齢者に限らず幅広い世代が活用できるよう取り組む。公共交通にとって安全・安心は重要であり、継続してバス停待合環境の整備、コロナ対策の周知などにより、利用促進に務めていき、利用者数を確保する。

２．アピールポイント、特に工夫した点など

・市立病院において、運転免許証返納者が来院した際にバス回数券１回分を配布した。

・高齢者運転免許証返納証明書の提示者への運賃割引制度をＰＲするため、市のホームページにて掲載するとともに、前述している市立病院の取組とリンクすることで病院利用者へ利便性を紹介した。

・市内の箕島高校生と協力し、高校生が選んだ有田市デマンドバスで行くことができるおススメスポットを市の広報紙で紹介し、利用促進に繋がる機会を作った。また、市の公式 YouTube 等の SNS でも連動して情報発信を行った。

・運行委託事業者である中紀バス(株)が主体となり、市内の糸我小学校 1、2 年生を対象にバスの乗り方等を伝え、利用に繋がる機会を作った。

Aコース路線図
Bコース路線図
Aコース
停留所
起点
Bコース
停留所
起点
東燃正門
紀勢本線
中野入口
初島浜バス停
初島本町
初島駅
東燃クラブ
初島里
新水泳場
産業道路
松源前
ぶっとく
幼稚園
港ポンプ前
天甫橋
箕島駅
オークワ前
水道事務所
柑翁会館
(デマンド)
下中島
(デマンド)
滝
(デマンド)
道共撰
福祉館なごみ
伊藤農園
新町
変電所前
須谷会館
紀勢本線
地蔵堂
(デマンド)
糸我共撰
にしき前
下中島まどか前
滝川原
公民館
紀伊宮原駅
熊野街道
鮎茶屋
星尾運送
保田組
保田バス停
野村バス停
福祉センター前
市立病院
古江見
老人憩いの家
プライス
カット前
しまむら
中御堂
宮崎保育所
浜入り口
箕島
漁港
男浦コミュニティ
センター
辰が浜
ふれあいセンター
有田川
ぺぺ
山地
(デマンド)
千田西
佐山
野井
須佐神社
高田
(デマンド)
逢井
(デマンド)
女の浦
矢櫃バス停